



Republic of
Ghana
06

ともだちになるために

山崎 知代子

鳥取県立鳥取芸術学校

- 実践教科等/英語、音楽、学活、その他(指導員設置事業、廊下掲示)
- 時間数/9時間
- 対象学年/中学1年生、3年生
- 対象人数/4名



手話という言葉で世界の人とつながることが実感できる。心と身体と頭で体験できる内容が素晴らしい。

❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- 身近なアフリカを知り、世界と自分をつなぐ。(出会い、ふれあい、学びあい)
 - アフリカを通して世界の国々、人々に興味を持ち、自分自身の視野を広げていく。
 - 自分自身のことを世界中の人々に伝えていき、友達を増やす。

❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	アフリカ大陸を知る (選択英語)	アフリカ大陸の国の数 言語について	・パワーポイント
2	本校の青年海外協力隊OBのアフリカ体験を聞く (選択英語)	ジンバブエについて 写真を見ながら、本校の職員の青年海外協力隊での経験を聞く 英文で書かれた体験談を読む	・写真 ・体験談(英文)
3	地域で生活するアフリカ出身者との交流 (指導員設置事業)	ジンバブエの料理 鳥取大学ジンバブエ出身の留学生と一緒に料理をする	・料理のレシピ
4	教師のガーナ出身者の知り合いを紹介する (選択英語) ガーナについて知る ガーナの有名人について知る	広島大学ガーナ出身の留学生との出会いを英文で紹介 生徒自身のガーナに関するイメージを引き出しながら、ガーナについての情報を伝える ガーナ出身の有名人についての記事を紹介	・写真・英文・教科書 ・パワーポイント ・ワークシート ・新聞切り抜き (朝日新聞 2007年6月9日 ひと:エマニュエル・オフォス・エボワ氏)
5	教師のガーナの体験を聞く (学活)	ガーナで撮った写真やビデオを見ながら、ガーナでの体験を話す	・写真・ビデオ ・体験談・パワーポイント
6・7	アフリカ音楽に触れる (音楽) 地域で活躍するアフリカ出身者との交流	①ガーナで撮影した楽器演奏やダンスをみる ②ギニア音楽体験 鳥取在住のギニア出身のミュージシャンとジェンベの演奏、アフリカダンス体験をする	・ガーナのビデオ ・パワーポイント ・ジェンベ
8・9	南アフリカ出身のALTIに、南アフリカについて質問をする (選択英語)	①質問を考える ②南アフリカの自然や学校について知る 地域の交流校の南アフリカ出身のALTIに質問をする	・事前の質問用紙 ・写真 ・ビデオ
不定期	ガーナの文化、生活を知る (選択英語)	ガーナで購入した英語の教科書を使って、英文や絵を見ながら、日本の文化や生活と比較する	・ガーナの英語の教科書 ・日本の英語の教科書
廊下掲示		新聞の切抜きから、身近な国際交流の記事を紹介 アフリカに関連する本や楽器などを廊下に並べた	・新聞記事 ・ガーナで購入したもの

◆授業の詳細

1 時 限目 アフリカ大陸を知る

アフリカの国の数と公用語を中心に学習し、アフリカに興味を持つ。特に英語を公用語とする国について学び、現在学習している英語がアフリカでも公用語として使われていることを知る。

【写真・資料】

教科書 (Sunshine3) program 3-1 構文より

English is very important these days.

Yes. It is used all over the world.



ワークシートの一部

生徒の様子

アフリカの国の数を今までに考えたことがなく、30くらいと答える生徒がいたが実際の数を知ると多いと驚いていた。また、公用語についても西アフリカで英語を公用語とする国が多いことに気づき、植民地の影響であることも考える機会となった。

〈所感〉

実際にアフリカの地図に色を塗ったりする作業をすることで、アフリカ大陸の国数の多さや、国の大きさ、公用語を英語とする国の分布などについても視覚的に確認することができた。アフリカ大陸の人々がしゃべる英語の訛りやアクセントを知る機会があれば英語の多様性を知ることができる。

2 時 限目 本校の青年海外協力隊OBのアフリカ体験を聞く

本校教員で青年海外協力隊OBがいるので、教員の派遣先であったジンバブエの写真や体験談を聞く。さらに、英文で書かれた体験談を読み、身近な人のアフリカ体験を知りアフリカを身近に感じる。

【写真・資料】

教科書 (Sunshine3) program 5 「Working as a Volunteer」 「シニア海外ボランティア」により、バブアニューギニアに日本語教師として派遣された隊員の報告が本課の基礎資料となっている。



A lot of children work in the field and sell vegetables to get the school fees. Most families have more than four children, so parents can't pay all of their school fees. It is usual for the first born to work and pay school fees for their brothers and sisters. People say, "We must help others." Not only with school fees, but people also help each other all the time. That way of thinking, makes me happy.

本校青年海外協力隊OB作成の体験談の一部抜粋

生徒の様子

ジンバブエの写真に興味深そうに見ながら、気になった学校の写真を指し、「何をしているところか」などの質問が出てきた。教員も、懐かしい思い出を回想しながら、楽しそうに生徒にジンバブエでの体験を話していた。教員の実体験に基づいた話は、生徒にとってもアフリカを身近に感じる機会となった。

〈所感〉

体験談の英文の読解は難しかったので、ALTが「What do a lot of children do?」など質問をする形式で、読解をしていった。事前に写真を通して体験談を聞いていたので英文に関しても興味を持ち、読んでみたいという気持ちになったようである。

3 時 限目 地域で生活するアフリカ出身者との交流

事前に学習したジンバブエについてより理解を深めるために、鳥取大学のジンバブエの留学生を招いて一緒に料理しながら交流をする。



料理の様子



手で食事をする様子

生徒の様子

ジンバブエの留学生にジンバブエの道具を使って、料理の仕方を教えてもらった。作った料理は、手で食べる経験をした。「とうもろこしを使った主食を混ぜるとき、力が必要でした。大変でした。」「初めて手で食べて、食べにくかったです。」「新しいことにチャレンジしているいろんなことにチャレンジしてみたい気持ちになりました。」などの感想があった。

〈所感〉

ジンバブエの留学生と一緒に料理を作ることで、自然に料理についての質問が出たり、できないときに手伝ってもらったりして交流ができた。英語やジェスチャー

田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 堅一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一美
報告書⑩

参考資料

が飛び交っていた。普段、ニュージーランド出身のALTから聞く英語との違いに気付いた生徒もいたのではないだろうか。

4時限目 教師のガーナ出身者の知り合いを紹介する

広島で知り合ったガーナ人の友達について学習中の構文を使って紹介する。ガーナについてのイメージを生徒から引き出しながら、ガーナについて話していく。ガーナ出身の義足のアスリート、エマニュエルの新聞記事(朝日新聞2007年6月9日「ひと:ガーナ障害者法を成立させた義足のアスリート、エマニュエル」)を紹介する。

ガーナ人の友達

He is from Ghana.

He has lived in Japan for three years and six months.

He has lived in Japan since 2003.



生徒の様子

学習中の現在完了形が定着してきたので、英文はよく理解できていた。生徒たちのガーナのイメージは「チョコレート」、以前学習した「公用語が英語」などであった。野口英世が黄熱病の研究をし、亡くなった場所がガーナであるということは知らなかったのと驚いている様子であった。ガーナにも盲学校や養護学校があることなども紹介すると興味を持っていた。ガーナ出身の義足のアスリートについての記事を読み、世界で活躍する障害者を知り、自分もがんばりたいという気持ちになった。

〈所感〉

教師の身近な体験を英文にすることで生徒の学習の意欲につながる。また、教師が実際にガーナの友達から聞いた情報を生徒たちに伝えることでガーナを身近に感じることができたようである。今まで、知る機会がなかったガーナに興味を持ち始めた。偶然、新聞記事にガーナ出身の義足のアスリートについての記事が出ていたので紹介したが、生徒たちにとって同じ障害者として考えさせられる記事であったようである。

5時限目 教師のガーナの体験を聞く

教師のガーナでの体験を写真やビデオを使って語った。特に、学校でガーナの子どもたちと手話の歌を歌ったことや、学校で一生懸命勉強する子どもたちの様子を伝えた。また、ガーナに行く前に生徒たちに紹介した新聞記事の義足のアスリート、エマニュエルに会いインタビューをしたり、メッセージをもらったりすることができたことを伝えた。



手話の歌を歌う様子



エマニュエルと記念撮影

生徒の様子

ガーナで子どもたちと一緒に歌った手話の歌「ともだちになるために」の映像に興味を持ち、ガーナの子どもたちが日本の手話をしている様子をじっくり見ていた。初めてする日本の手話を子どもたちが楽しそうにしている様子を見て、手話は世界に通じる言語なんだなあと思感したのではないだろうか。

〈所感〉

1時間で、時間が短かったので補足を英語の時間にした。英語と手話を通して、コミュニケーションができたことを生徒たちに感じてもらえたのではないだろうか。生徒が普段学習している英語や音楽の授業が活かされていることが伝わったのではないだろうか。世界と自分たちが通じたという気持ちになったのではないだろうか。また、義足のアスリートから聾学校の生徒へのメッセージ「一人が動けば、何かが変わる。」「やろうという思いがあれば、何でもできる。」は、生徒一人一人の心に届くものになった。

6・7時限目 アフリカ音楽に触れる 地域で活躍するアフリカ出身者との交流

6時限目に、ガーナの学校で撮影した、ダンス、歌、楽器演奏、手話の歌の様子のビデオを見た。7時限目は、ガーナと同じ西アフリカのギニア出身で鳥取在住で音楽活動をしているアラマさんを招き、ジェンベの鑑賞、アフリカダンス体験、ジェンベ演奏体験を行った。



ギニア人アラマさんの演奏



ジェンベ体験の様子

生徒の様子

ガーナのダンスのビデオを見たときは、ビデオを見ながら真似て踊りだす生徒もいた。同じ中学生が踊っている、見たこともない動きに興味を持ったようである。実際に学校でギニア人が演奏するジェンベの音を聴いたときは、生徒たちの身体が自然に動き出し、会場がアフリカの音楽に包まれた。ジェンベが建物中に響くのをもどく生徒も感じ取り、感じるがままに踊っていた。また、アフリカダンスやジェンベの体験もさせてもらい、ギニアのアラマさんとも交流ができた。最後には、手話の歌「ともだちになるために」をお礼に披露し、アラマさんたちと一緒に手話をする場面も見られた。

〈所感〉

鳥取県に、ギニア出身で音楽活動をしている人がいることは以前から知っていたので、「芸術宅配便」という事業を使って学校に招待し、アフリカ音楽に触れる機会を持てたことが良かった。日頃から、地域社会の様々な国際交流の行事に目を向けているので大変良いタイミングでこの事業が活用できてよかった。生徒たちにとっても、アフリカ音楽を身近に感じる事ができた。また、聴覚障害のある生徒たちにとって、ダンスや全身で感じる太鼓は音楽を楽しむことに大変有効である。

8・9時 南アフリカ出身のALTに、南アフリカについて質問をする

8時限目は、本校のALTと事前に南アフリカに関する質問を考えた。9時限目に、南アフリカ出身のALTが来校し、事前に準備した質問をした。南アフリカの写真やパンフレットを提示しながら回答してもらう。

Have you seen a lion / elephant?
Do you have any pets?
What is your first language?

質問の一部

生徒の様子

交流校の学校祭に行ったときに、南アフリカについてのプレゼンテーションを見ていたので南アフリカのイメージを持つことができていたので質問などもスムーズに考えることができた。しかし、質問を英語で考えることが難しかったので、本校のALTの先生と一緒に事前に質問を考えた。また、筆談でのコミュニケーションが有効であるので事前に質問を紙に書いて準備をした。南アフリカの写真やビデオに興味を持ち、実際に体験したことを話してもらい準備していた質問以外にも質問が出てきた。

〈所感〉

南アフリカのALTとは、事前に質問事項などの打ち合わせをし、視覚的にわかりやすいように、南アフリカの写真やビデオを準備してもらった。地域の学校のALTということもあり、今回の学習での交流は短かったが、今後も質問をしたり交流する場面が考えられる。12月には、本校で行ったクリスマス会に参加してもらった。2月には学校祭もあるので、招待する予定である。また、生徒たちも、駅周辺などで偶然会う機会があり話しかけてみたという生徒もいた。このように、継続的に日常的に交流ができると良い。

不定期 ガーナの文化、生活を知る

ガーナで購入した英語の教科書を常備し、日本の教科書の内容と合うときに、ガーナの教科書を活用する。

例えば、曜日の学習。ガーナの教科書では、金曜日にモスクに行ったり、日曜日に教会に行ったりという表現がある。生活、宗教の違いが比較できる。教科書の絵の中にも多くの相違点を発見できる。朝食の比較、「I wash my face.」小さなコップで顔を洗う子どもの様子。水の大切さを知ることができる。



朝食の比較



ガーナの教科書より
「I wash my face.」

生徒の様子

生徒自身がガーナの教科書の絵から色々なことに気付いた。英語の文法を学習しながら、異文化についても考える機会となった。

〈所感〉

授業の中の5分間でも、ガーナの教科書を使って学習することで自然な形でガーナの生活や文化に触れることができる。このような機会を継続的に作っていくことで、少しずつ無理なく異文化に触れる機会となる。

■ 廊下掲示



ガーナで購入した本・楽器等

ガーナから持ち帰ったものを展示したり、地域での国際交流関係の記事の切抜きを掲示したり、アフリカに関する学習の様子写真などを掲示したりすることでアフリカを身近に感じることができる。

田中 紀子
報告書①

古部 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

黒森 美由姫
報告書④

黒明 聖一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料

❖ 成果と課題

〈生徒〉

- ・地域に生活するアフリカ人と触れ合う機会を持った。
- ・身近なところから世界に興味を持った。
- ・地域で学びあって生きていくことを知った。
- ・世界レベルでの環境問題について考えることができた。
- ・物の大切さを感じた。
- ・友達を増やすことができた。
- ・新しい世界を知る楽しさを知った。
- ・新しいことに挑戦してみる気持ちになった。
- ・家族や友達への話題提供ができた。

〈教員〉

- ・地域の中で、生徒と共に学び、共感することの大切さを再確認できた。
- ・地域の中で学び合うためには、ネットワークが大切である。
- ・今回の授業に関わった人たちを中心に今後も交流を継続させたい。
- ・様々な教科との連携ができるとよかった。
- ・世界に生きる人間作りをしていきたい。
- ・イメージを破ることの大切さを感じた。
- ・世界と子どもたちをつなぐ架け橋になりたい。

📖 参考資料

日本の英語の教科書「Sunshine3」開隆堂
ガーナの英語の教科書「Primary1」

注) 指導員設置事業

幼児・児童・生徒のうち休業日及び長期休業日に自宅や地域で過ごすことが困難な子供たちを対象に、休業日及び長期休業日に必要に応じて指導員を配置し、指導を行うもの。

※